

## ● 20周年を迎えて ●



長年にわたり当社の製品をご愛顧いただき、ありがとうございます。

お蔭様でS/Fシリーズも20周年を迎えることができました。この間、ファブの皆様には当社の製品に温かいご支援、ご指導と、高い信頼、実績をいただき、重ねて御礼申し上げます。

当社がファブ用の図形処理を始めるきっかけは、1987年、あの床描き原図作業をなんとか廉価なパソコンでできないか、ユーザーの操作が簡単で、作業が速いソフトを作りたいとの思いで開発に踏み切った「S/Fジュニア」が最初です。

当時原寸場でチヨークを使い床にしゃがみ込む様にして現図を描いたもので、原寸作業は熟練者の技と根気、体力勝負の様相を呈した作業でした。今では、工場に原寸場が無くなりつつあります。

その頃は、バブル景気の入り口で「ドットウエルビー・エム・エス」とともに、全国的に販売活動を進めてゆくことになり、バブル景気が続く中、販売は順調に推移しました。

自動施工図システム 現「S/Fライナー」がパソコンでもできるようになり、ドープチ、プレスと順次開発が進みました。

その後バブルが崩壊し、複合不況や価格破壊などを背景にした長い不景気がありました。しかし、パソコンのスペックは日進月歩を遂げ、OSはDOSからWindowsへ、インターネットの普及は世界の市場をグローバル化させ、人・モノ・ビ

ジネス・などの交流のスピードとスケールの価値感を大きく変化させました。

平成12年には、S/Fシリーズのユーザー数も1300社を超え、ソフトの出荷本数も10000本を突破しました。その翌年あの「同時多発テロ事件」が起こり、建築の設計や構造に対する論議や認識が一気に高まりました。

S/Fシリーズが世界に羽ばたくソフトをイメージして制作した「S/Fジュニア」のカタログ（本誌表紙）にも、ツインタワーの景観が残っており、時代の流れ、時間の経過を感じ取ることができ、感無量です。

今では、鉄骨CADの業界も発展期から成熟期になっているように思えます。

CADシステムとカッティングプロッター、プリンターの組み合わせで作図処理の大半ができます。またこれらのデータはCAMにわたされ、加工機に連動します。また、見積・積算データからは発注処理や材料の取合い、施工図データからは、工程管理や原価管理、生産管理へとデータを連動させることができます。

これからも鉄構業の理想のパートナーを目指し、簡単な操作で高い機能を有し、ユーザーフレンドリーなシステムの開発を目標に努力し続ける所存です。今後とも、お引き立ての程よろしくお願い申し上げます。

データロジック  
代表取締役社長 波田 邦宏